

3 調査研究事業における取組

(1) 実施要領

「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業実施要領
静岡県教育委員会

1 趣旨

静岡県教育委員会（以下、「県教育委員会」とする。）は、調査研究推進地区教育委員会（以下、「推進地区教育委員会」とする。）及び調査研究指定校（以下、「指定校」とする。）との連携・協力の下、「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくりを推進することについて調査研究を実施し、その成果の普及を図ることにより、小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の資質・能力の育成に資する。

2 指定期間

令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間とする。

※令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間は、令和6年度予算の確保状況により「6 経費」の内容に変更の可能性がある。

3 事業の指定

県教育委員会が、静東教育事務所管内及び静西教育事務所管内のそれぞれに小学校及び中学校1校ずつの計4校を調査研究のための指定校とする。ただし、1中学校区のすべての小・中学校を指定する場合に限り、小学校が2校以上になることも可とする。

また、指定校を所管する教育委員会を推進地区教育委員会とする。

4 事業の実施内容

(1) 本事業においては、「1 趣旨」に基づき、指定校において、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、必要に応じてICTを効果的に活用した授業づくり及び安心して学び合える居場所としての学級づくりを行うことを通して、児童生徒の資質・能力の育成を目指した方策について調査研究を行うものとする。

(2) 県教育委員会においては、以下のことを行うものとする。

ア 学力向上推進協議会を設置し、推進地区教育委員会及び指定校に対して、本事業の円滑な実施のために必要な指導・助言及び成果の検証を行う。

イ 指定校に対して、学力向上推進協議会によるサポートチームや教育事務所教育主幹等を派遣し、必要な指導・助言等を行う。

(3) 推進地区教育委員会においては、県教育委員会における実施方針に基づき、以下のことを行うものとする。

ア 指定校に対し、本事業の円滑な実施のために必要な指導・助言等を行う。

イ 指定校に対し、成果の発表等への支援を行う。

ウ 指定校の取組や成果等を市町内の各学校へ周知する。

エ 学力向上推進協議会に出席し、調査研究への支援状況等を報告する。

(4) 指定校においては、県教育委員会における実施方針に基づき、以下のことを行うものとする。

ア 「1 趣旨」や各学校の状況等を踏まえて、調査研究テーマを設定する。

イ 調査研究成果を検証するための成果指標を設定する。

ウ 調査研究テーマに沿って、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために必要に応じてICTを効果的に活用した授業づくり及び安心して学び合える居場所

としての学級づくりを推進し、子供の資質・能力の育成を目指した取組を計画し実践する。

エ 調査研究の成果を検証する。

オ 学力向上推進協議会に出席し、調査研究の状況等を報告する。

5 実施計画書等

(1) 推進地区教育委員会及び指定校は、第1年次の始めに実施計画書、第1年次の終わりに中間報告書、第2年次の始めに実施計画書、第2年次の終わり（事業の終了時）に実績報告書を提出するものとする。

(2) 実施計画書等の様式その他必要な事項については、県教育委員会から別途連絡する。

※中間報告書、実績報告書は、学力向上推進協議会報告書として、県教育委員会義務教育課のWebページに公表する予定である。

6 経費

県教育委員会で負担する謝金及び旅費は以下のとおりとする。

(1) 学力向上推進協議会からのサポートチームの派遣は、各学校年間2回以内とする。ただし、1中学校区の小・中学校が指定校の場合には、学区年間4回以内とする。

(2) 教育事務所教育主幹等による支援研修等は、各学校年間3回以内とする。ただし、1中学校区の小・中学校が指定校の場合には、学区年間6回以内とする。

(3) 調査研究指定校が招聘する講師（大学教授等）の派遣は、各学校年間2回以内とする。ただし、1中学校区の小・中学校が指定校の場合には、学区年間4回以内とする。

※研究発表会の実施に係る諸費用や学校職員の県外視察等にかかる旅費等については、推進地区教育委員会及び指定校負担とする。

7 会計年度任用職員

(1) 本調査研究を推進する教員（研修主任等）の負担軽減のための非常勤講師を配置する。

※1人あたり10時間/週×35週、2,830円/時間、通勤手当週5日分で算定

(2) 第1年次、第2年次ごとに実施計画書及び実施報告書を提出する。実施計画書及び実施報告書の様式その他必要な事項については、県教育委員会から別途連絡する。

8 調査研究成果の発表

指定校は、調査研究の2年目に調査研究の成果等を発表する。なお、調査研究成果の発表については、県教育委員会が定める「研究指定校の研究実践・成果の公表について」による。

※県教育委員会は、指定校が行う2年間の調査研究後に、指定校の成果等をまとめたものを作成する予定である。

※推進地区教育委員会及び指定校は、学力向上連絡協議会の際に、実践報告等を行う場合がある。

9 その他

(1) 県教育委員会は、必要に応じ、本事業の実施状況等の把握のため、実態調査（指定校訪問など）を行う。

(2) この要領に定めのない事項で事業の実施に必要な事項は、必要に応じ、県教育委員会が別に指示する。

(2) 指定校、推進地区教育委員会の取組（実績報告書）
ア 共通理解事項

1 趣旨

静岡県教育委員会は、調査研究推進地区教育委員会及び調査研究指定校との連携・協力の下、「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくりを推進することについて調査研究を実施し、その成果の普及を図ることにより、小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の資質・能力の育成に資する。

2 「誰一人取り残さない教育」

本調査研究事業では、「誰一人取り残さない教育」を「誰もが安心して学べる学習環境を土台として、一人一人に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る子供主体の教育」とおさえる。

3 ロードマップ

	令和5年度 上期（4～9月）	下期（10～3月）	令和6年度 上期（4～9月）	下期（10～3月）
指定校作成文書 学力向上推進協議会	○R5計画書 ①	○報告書 ③	○R6計画書 ④	○報告書 ⑥
丹那小学校 共有体験を通して、主体的に学び、学び合う児童の育成	学び方を学ぶ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実			
下田中学校 対話的・協働的な学びを通して、Well-Beingを目指す生徒の育成	対話的な学び・協働的な学びの充実			
若つつじ学園 人権教育を基盤として、自己有用感を高め、主体的に学ぶ児童生徒の育成	魅力ある授業づくり・児童生徒を主体とした学び			
横須賀小学校 学習課題等の工夫による、子供たち自身で課題解決できる子の育成	主体的な学び・協働的な学び			
大淵小学校 自他との対話を通して、自ら気づき、考え、行動に移せる子供の育成	主体的な学び・協働的な学び			
大須賀中学校 コミュニケーション活動を通して、主体的に聴くことのできる生徒の育成	人間関係づくり・協働的な学び			

誰一人取り残さない教育の実現

1 2年間の取組の状況

(1) 研究テーマについて

①研究テーマ

「主体的に学び、学び合う子供の育成」
～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～

②研究テーマ設定の理由

令和5年度「主体的に学ぶ」「学び合う」に焦点を当て、各学級の実態について確認した。学年によって違いはあるが、

- 学ぶ意欲はある。○やることが分かる。○見通しがもてると活発に取り組む。
- 友達、異学年同士の教え合いが自然にできる。
- ICTスキルは向上しており使い慣れている。
- △学びを広げたり深めたりすることまで至らない。
- △指示待ちになっている。

という児童のよさと課題が見えてきた。そこで、目指す子供の姿として「主体的に学ぶ姿」「学び合う姿」について、個々の捉え方を出し合い共有した。「安心して学び合える居場所としての学級づくり」の手立ても含め、検討・決定をした。

③研究テーマ達成に向けた取組

調査研究テーマの達成に向け、令和5年度は、授業における子供たちの実態を確認し、「主体的に学ぶ姿」と「学び合う姿」について、実態を基に目指す子供の姿を検討した。これまでの研修で積み重ねてきたことを生かしながら、「選択と決定」をキーワードに授業づくりを行ってきた。学級づくりにおいては、安心して学び合える居場所づくりを意識し、オール丹那の共有体験やSSTなど、これまでの教育活動の価値付けを行い、共感的集団づくりを目指すことにした。

令和5年度の研究での成果として、授業づくりでは、教員が子供たちと共に授業をつくる意識が高まり、授業観や児童観の転換が見られたことが挙げられ、単元目標や付けたい力の獲得に向けて、子供たちがどのように考え、学んでいくか、子供を主語にして単元全体を構想し、教員の出番と子供に学びを委ねる場面を適切に設定することができるようになってきた。学級づくりでは、共有体験を通してお互いのよさを認め合ったり、Google Formsのアンケートで困り感を発信し、教員が寄り添ったりしたことで、学校や学級が安心できる居場所になってきている。一方課題として、仮説検証の難しさやSSTのマンネリ化などが挙げられた。

そのため、令和6年度は、目指す子供の姿を実態に基づき具体化した上で、子供たちが各教科等の見方・考え方を働かせながら学ぶ「個別最適な学び」と「協働的な学び」、それらの一体的な充実の実現のため、以下を柱として授業改善に励むことにした。

主体的・対話的で深い学びを育む授業改善 7つのポイント

- ① 子供と単元目標を共有する。
- ② 子供と単元計画を作成する。
- ③ 子供が、教科等の見方・考え方を働かせた本時のめあてをたてる。
- ④ 子供が、学び方を選択・決定する。
- ⑤ 子供が、自分の学びを調整する。
- ⑥ 子供が、本時のめあてに対する振り返りをする。
- ⑦ 子供が、単元目標に対する振り返りをする。

③から⑥を繰り返す。

これらの取組によって、教員の授業観・児童観がさらに一歩進み、確かなものになることを目指す。また、今年度より、他者の思いや考えを肯定的に受け止める態度を育成するためのサークル対話と、スクールカウンセラーによる SST 等を実施することで、「協働的な学び」の土台になる、安心して学び合える学級づくりを進めることとした。

(2) 研究の具体的取組

①授業改善へのアプローチ

【令和5年度】

授業改善に向け「学習者中心の授業を行い、一人一人が自分の学びに向かう」姿を目指した。最初の授業研究では、自分で選択・決定して学習を進める追究方法を考えた。追究のイメージを共有し、授業改善に向けた具体的な方向を確認した。

2回目の授業研究では、一人一人が学びに向かうための、「単元のゴール・目標・計画づくり」に重点を置いた。パフォーマンス課題の提示をし、解決方法を全体で考えてから単元全体の目標を確認し、その目標を達成するための道筋をスプレッドシートで友達と共有しながら考えることにより、自分なりに単元計画を立てることができた。【資料1】単元内自由進度学習の提案によって、難易度に合わせて追究方法を選ぶ姿、友達と考える姿、友達と交流した後、そこで得た学びを生かし、再度個で学ぶ姿を期待したが、協働を必要としている場面が少なく、一人学びになる時間が多くなったため、学びの深まりや広がりが少ないことが課題として明確になった。

そこで、「選択・決定・協働・振り返り」を重点に授業改善に取り組んだ。個々が計画シートや振り返りシートを記入し、友達とともに学ぶことによって、互いの学習計画や追究方法を知り、計画の加筆や修正、追究の方向の妥当性を確認できる。そのよさを教師が価値付けることで、子供が自分の学びを調整することや、計画・振り返りの質の向上及び日常生活（学級づくりにおいて）から固定化された人間関



係を崩す教師の役割が重要であることが分かった。また、「自分で選択・決定する追究方法」として、学びの積み重ねや調整のプロセスを可視化するための OPP シート（One Page Portfolio）を活用した提案がされた。【資料 2】また、子供たちが追究する際に、必要感に沿った手立てになるよう、友達の追究する視点をスプレッドシートで共有できるようにした。【資料 3・4】その結果、同じ視点をもった友達同士で対話する姿や友達と協働したことで安心して活動する姿が見られた。OPP シートにも、子供なりの言葉で協働のよさについて書かれていた。その一方で、依然として対話を必要としていない子供もいた。子供に応じて、追究している最中にこちらが声掛けをして再考を促したり、一定の時間じっくり追究した後、考えの違いやずれをきっかけに「対話」の場を設定したりするという、意味のある対話の場が求められる。また、OPP シートは、形式よりもその質を上げるための例示や価値付けが欠かせないことを共有した。

そこで、対話の場における教師の役割に視点をおき、「ともに学び合う場の設定（対話）」と、「友達と学んだからこそそのよさを振り返る」手立てとして、任せっぱなしでない「教師の出番・コーディネート」で対話を促すことで子供の考えが広がり深まったりする姿が見られた。対話のタイミングによっては、自分で追究したいのに友達に來られて戸惑う子供や、一人で考え続けたい子供もおり、協働の場の設定の難しさを感じた。

子供たちがより深い学びを実感できるよう、「その子の学びの文脈に沿って『個別最適な学び』『協働的な学び』が自然と起こる」授業を目指し、「対話」という学び方とその価値を粘り強く伝え続けることも確認した。

また、男女や習熟の度合いにとらわれることなく、「友達の考えはどうか。」「なぜそう考えたの。」と友達の考えに興味をもち、友達とともに学んだからこそ気付いたり広がりを感じられる「対話」の場面も見えてきた。これは、「安心して学び合える居場所としての学級づくり」ができているからこそその姿であり、これまでの研修や授業改善の積み重ねの成果であると感じた。

【令和 6 年度】

令和 5 年度の研究成果を確認しながら、より子供主体の学びとなるよう授業改善を進めた。主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりに向けた授業改善の 7 つのポイントを意識して授業実践を重ね、授業研究を行った。



授業研究では、「①子供と単元のゴールを共有する」「②子供と単元計画を作成する」を、次に「③子供が教科の見方・考え方を働かせた本時のめあてをたてる」「④子供が学び方を選択・決定する」を重点とした。【資料 5・6】 また、手立てのひとつとして「単元内自由進度学

習」を継続して取り入れてきた。

授業改善の成果として、子供が先を見通して学習するようになったことや、授業者が今までよりも単元全体を意識して授業を構想することができるようになったことが挙げられた。

一方で、「選択」と「決定」をキーワードに研修をしてきたが、子供自身が「選びたい」「自分で決めたい」と思えるような学びの場になっているのか、手立ての一つである「単元内自由進度学習」の方法論に傾いていないか、等の疑問が生まれてきた。また、授業者がより単元の流れを意識して授業を構築する、子供が先を見通して学習に取り組んでいる、といった成果が見られたものの、ともすると「子供に選択・決定させる」という意識ばかりが先行してしまっていないか、という課題も確認した。そこで、再度原点に立ち返り、丹那小が考える「誰一人取り残さない」とは何かを話し合った。「誰一人取り残さない教育」を「主体的に学び、学び合う子供の育成」と捉え、主体的に学び、学び合うためには、子供自身が自ら選択、決定するだけでなく、自分の成長を実感できることが大切であるとの考えに至った。そこで、「誰一人取り残さない教育」を「その子なりの成長が認められ、その子にあった学力が定着できるようになること」と捉え直すこととした。子供は有能な学習者であるという視点に立ち、少人数の学校であるという環境を生かして、個々の成長を支えていくことを確認した。



授業研究では、事前研修から抽出児童を決め、その子のよさを生かすために、どのように学習を進めていったらよいか、学びの環境を整えていくか等、個人に注目した研修を行った。【資料7】教科の姿だけでなく、休み時間や普段の生活の様子、家庭環境、友人関係等を全職員が共有できる小さな学校の強みを生かすこととした。授業では、抽出児童の表情やつぶやき、動作からその子の学びが変わっていく様子やその子らしさが表出されている場面を数多く確認することができた。そのよい表れが見られた要因を探ることで、それぞれの授業改善に生かそうと努めた。

②安心して学び合える居場所としての学級づくりへのアプローチ

(ア)共有体験の場

本校では、上級生は「下級生の手本となり、頑張ろう。」という思いをもち、下級生は「大きくなったらこうなりたい。」と、上級生の姿に憧れをもち、未来の自分の姿を重ねていくという丹那のよい伝統がある。そこで、地域と一体となって取り組むミッションとして、「玄岳遠足」「オール丹那運動会」「自給自足 DAY（5年度のみ）」

「ありがとうの会」を設定した。子供は地域や保護者の皆様からもよさを認められ、所属感や自己有用感を味わっている。



(イ)違いを認め合える共感的な集団づくり

- ・ 友達のよさを認め合う場として朝の会、帰りの会を活用
- ・ 学級をよりよくするための自治活動の場として、クラスタイムを設定
- ・ テーマに沿って思いや考えを伝える、サークル対話の導入

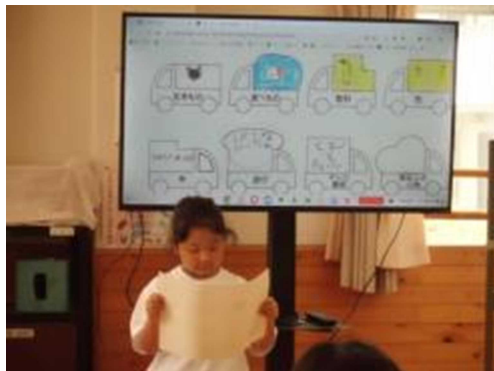


上記の活動を通して、自分の思いを伝え、友達の考えを理解する経験を重ね、感じ方や考え方の違いに気づき、受け入れる態度が育ってきた。

◀ サークル対話
円座に座り、考えや思いを伝え合う

(ウ)コミュニケーション能力の育成

養護教諭・スクールカウンセラー協働による SST 等を実施することで、自分自身を肯定的に振り返り、互いを認め合うことができた。また、友達がいることのよさについて、再確認できている子供も見られた。



第2回 SST（スキスキランド）の様子と児童の感想

- ・ 自分の好きなものを考えることはめったにないので楽しかったです。
- ・ 自分の好きなものを見付けることができたので、スキスキランドをやってよかった。
- ・好きなものを思い返せたり、友達に伝えたりすることができて良かった。こういう機会にしっかり伝え合った方が良いと思った。
- ・ちゃんと友達の好きを聞けて、自分の好きなものをちゃんと説明できてうれしかったです。自分が言ったとき友達もそれいいよねって言ってくれました。

(エ)主体的に進める児童会活動

委員会活動や縦割り活動が充実できるよう、委員会
・縦割りグループごとに企画する活動を増やした。工夫した活動を推進することで、自分たちで学校生活を楽しくしている実感をもつことができた。



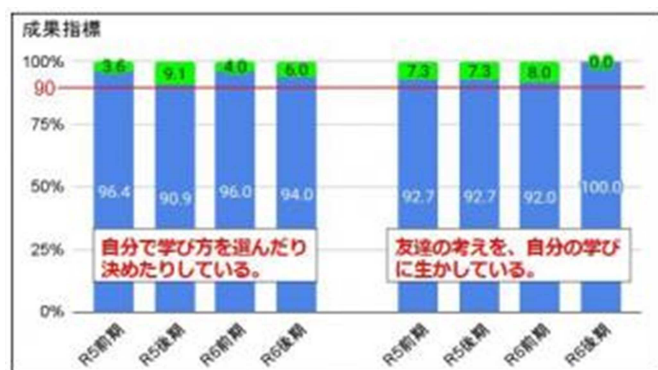
(オ)普段感じていることの発信

週1回の「心の健康観察」（資料8）と随時入力できる「心のアンケート」を組み合わせ、子供の心理状態の把握に努めた。日常のできごとに喜びを感じたり、楽しみを見つけたりしている様子も子供理解につながっていった。

2 2年間の成果のまとめ

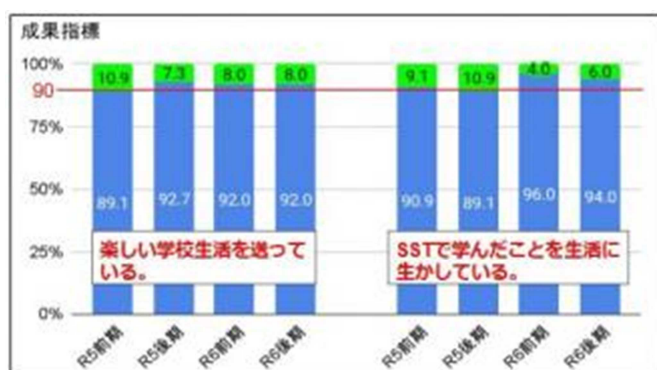
(1) 学校評価アンケートより

【授業づくりについて】



肯定的な評価が90%を超えている。D評価がほとんどいない。友達の考えを自分の学びに生かしているの項目は、肯定的な評価が100%になった。2年間の研究により、進んで他者と関わり、学びを深めようとする姿が見られるなど、協働的な学びがすすんだ結果といえる。

【学級づくりについて】



R5年度に比べ、SSTの数値が良好になった。楽しい学校生活を送っている子も継続して90%以上いることがわかる。また、今年度後期は、どちらの項目も一番低いD評価を付けた子供は0人になった。C評価を付けている子供が一定数いることは課題である。

<児童アンケートより>

- ・自分に合ったペースで進めることができて、苦手な問題が少なくなった。（3年）
- ・インターネットの資料を使うことで、教科書で学べないことも学べた。（4年）
- ・自分にあった学び方を選ぶ力がついたと思う。（5年）
- ・やりたいところを周りに気を取られないで、じっくり学べることがいいと思う。（6年）

(2) 成果と課題

【成果】

- ・個に重点をおき、その子のよさやその子なりの成長を見取ることができた。学校の様子だけでなく、休み時間や家庭での様子もその子の実態として捉えることで、子供のよさを生かす授業構想ができ、主体的な学びにつながることを確認できた。
- ・「授業づくり」の土台が「学級づくり」という一方的な視点ではなく、「授業づくり」と「学級づくり」を一体として捉えることで、その子らしさや可能性を広げていくことができることを確認した。
- ・「単元内自由進度学習」を取り入れることで、今までの授業が形態にかかわらず全ての子供に同じ活動を要求するという意味で「一斉授業」であったことを再確認できた。子供自身が単元計画を立てる活動を経験することで、子供も自分の学びたい方法で学ぶことができることに気付いた。「こう学びたい」という子供の思いが、協働的な学びにつながっていた。
- ・一人一人を支え、寄り添い、常に自分の思いを発信できるようにしていくことが安心して学び合える居場所づくりにつながり、学習も充実させていくことを再確認した。

【課題と今後の取組】

- ・「選択」「決定」をキーワードとして授業改善に取り組んできたが、子供自身が「自分で選びたい」「自分で決めたい」と思えるような手立てが必要である。また、追究課題が子供の問いとなっているかを単元の中で確認し、修正していく必要がある。
- ・授業で表れた子供一人一人の学びや思いを、授業者が見取る力を付けなければならない。その上で、その子なりの学びや伸びを認め、全体に広げていけるよう、授業改善を進める。
- ・「その子ならどう考えるか?」「どう学ぼうとするか?」を考え、授業構想、単元構想を進めていく。

子供たちは、「学び方を学んでいる」ところである。そして、わたしたちも今までの授業観「教師が『教える』授業」から、「学習者と共に『学び取る』」授業」に転換するよう、研修を進め、授業改善をしているところである。そのためには、まず子供の姿を肯定的にそして総合的に見取り、その子のよさを引き出していくことが必要不可欠である。その意味では、「授業改善」と「安心して学び合える居場所としての学級づくり」は、「両輪」ではなく一体化されたものである。学校規模の特徴を最大限に生かし、さらに研究を進めていきたい。

「誰一人取り残さない教育」の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業
実績報告書別紙資料

函南町立丹那小学校

【資料1】学習計画シート

1	算数「円の面積」学習内容		名前()
2	下の課題を解決するために、6時間、学習します。		
3	あなたはピザ職人です。直径20cmのピザ専門店に働いています。ある日、四人家族から、「それぞれが別々のピザを食べたい。四等分してほしい。」と言われました。もとのピザの四分の一の面積になるピザをつくるには、直径を何cmにしたらよいでしょうか。		
4	はじめの考え		
5			
6	学習すること		
7	時間目	学習すること	できるようになりたいこと
8	1	課題確認 学習計画	自分の学習を計画する。2～5時間目を決定する。
9	2	面積の○○について、考える。	
10	3	面積の○○について、考える。	
11	4	面積の△△ができるようになる。	これまでの学びを共有する。
12	5	□□さんと一緒に～～をやる。	P109まで終わらせる
13	6	課題解決	四分の一の面積にするために、直径を求めることができる。
14			
15			

課題解決に向けて、どのように学ぶのか、子供自身が学習計画を立てた。ICTを活用し、全員分のシートのタブを作ること、他の子供の計画を自分の計画づくりのための参考にできるようにした。

【資料2】OPPシート（A3サイズ）

OPPシートは、学習計画の進捗を記録するためのシートです。画像には、複数のシートが並べられており、手書きの文字と図が描かれています。シートには「今日の学習内容」「今日の学習で一番大切だったこと」「今日の学習で一番大変だったこと」などの項目があり、子供たちが自分の学習内容を記入しています。また、シートには「今日の学習で一番大切だったこと」や「今日の学習で一番大変だったこと」などの項目があり、子供たちが自分の学習内容を記入しています。

OPPシートは1枚の紙に、自分の学びを残すことができる。単元全体の自分の学びを振り返ったりすることで、自分の学びを調整する力を伸ばすことにつながった。

【資料3】学習のめあて記入シート

1 時間目	3 時間目	4 時間目
9/13		
単元の学習のめあて 何ができるようにになりたい？ どうやって学ぶ？	今日のめあて 何ができるようにになりたい？ どうやって学ぶ？	ふりがえり 何がわかった？ 自分の学び方はどうだった？
教科書を見ながら友達と一緒にやる！ 問題がちゃんと解けるようになりたい！	粘土を使って、公式を考える！	粘土で考えたけど、全然わからなかった。でも、友達といろいろ意見を言い合うことができた。
	公式を見つけ出す。	公式を見つけ出した！粘土をやめて、切ったり敷いたりした公式がわかった。
	14	44
円の面積を求められるようになりたい どんな問題でもすぐに解けるようになりたい	公式を考える。友達と一緒に教科書を参考にして考えていく。	公式がわかった。教科書を見たらよくわかったから、次の時間教科書を使って考えていく。
	28	42
公式を理解し、問題を解けるようになりたい	もう少しで公式にたどり着けそうかな...って感じ。粘土を使ったり、マスを敷いたりして公式を出したい。	あまり進まなかったので、今度は絶対に公式にたどり着く！
	48	27
		9
		25

「単元のめあて」、「本時のめあて」、「振り返り」を記入できるシートを作成し、単元全体で活用した。ICTを活用したことで、他の子供の学びを参考にしたり、進み具合をもとに一緒に学びたい人を見付けたりする姿が見られた。

【資料4】学習の進め方計画表

社会科 残したいもの 伝えたいもの 学習計画表のコピー ☆ 田 田								
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ								
100% 123 デフォ... 10 B I A								
J3	女							
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	丹那トンネルのことを伝える文章を書くときに「掘った（作った）人」「使う人」「丹那に住んでいる人」の3つの立場から2つ以上は選びましょう。							
2			A	B	C	D (欠席)	E	F
3	掘った人	ねがい	☐	☐	☒	☐	☒	☒
4	作った人	努力	☐	☐	☐	☐	☒	☒
5		舌労	☒	☒	☒	☐	☒	☐
6	使う人	ねがい	☒	☒	☒	☐	☒	☒
7		努力	☐	☐	☐	☐	☐	☒
8		舌労	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9	丹那に	ねがい	☐	☐	☒	☐	☒	☒
10	住んでいる人	努力	☐	☒	☐	☐	☒	☒
11		舌労	☒	☐	☒	☐	☒	☒
12								
13	※舌労・・・舌しい思いをすること							
14								

何を使って学ぶか、何を考えるか、誰と学ぶかなど、学び方を選択・決定した。選択決定するとともに他の子供が何を学んでいるかを共有できるようにした。協働を意識し、同じことについて学んでいる人のところに質問に行き、意見交換できるようにシートにした。

【資料5】学習計画（令和6年度：4年生国語科）

4回目 不思議だと思ったことについて考えをまとめ る。発表準備	3回目 登場人物の気持ち（性格・思っていること） 松井さんがなぜ消えてしまったのかについて 考えをまとめる。	2回目 ふしぎなことを全部答えを見つける。できたら登場 人物の気持ちを考え、思っていることを書く。	1回目 ふしぎなことを書き出す。分かることがわ かると答えを見つける。	○学習の計画を立てよう。（4回）	4回目 最後に、登場人物の気持ちを考え自分の気持 ちと比べる	3回目 つれられてきたお母さんの気持ち、男の子の 気持ち	2回目 不思議なことを探す。そして、不思議なことがあった人の気持 ちを考えて、自分だったらどんな行動や、気持ちを考えるかを考え て、登場人物の考えと、比べてみる。	1回目 松井さんが戻ってきて、おかっぱの子供が 乗ってきたときの気持ちを考え、思っていること	○学習の計画を立てよう。（4回）
---------------------------------------	---	---	---	------------------	--------------------------------------	------------------------------------	--	--	------------------

国語科の単元内4時間分の学習計画。自分の課題解決に向けてどのように学ぶか考
えることができています。

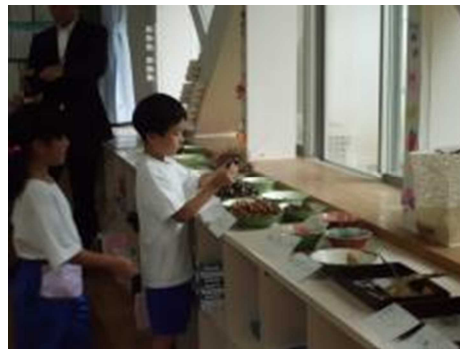
【資料6】学習計画（令和6年度：5年生社会科）

3時間目	3時間目	4時間目	4時間目	5時間目	5時間目
桃の時期と桃がよく作られて いる県、桃を上手に作るため の工夫などを調べてまとめる。 教科書やNHKforSchool などを使ってまとめている。	今日は、桃のことについて調べて 書いた。桃がよく作られている県と桃 を作るための条件を調べることがで きた。NHKforSchoolがなかったか らサイトを使って調べた。桃は、山 形県が生産量1位ということがわかっ た。次の時間は桃のいい育て方とか を調べて時間があいたら調べたこと をまとめた。	まとめで頑張る。頑張った。桃の情 報が少なく大変だった。山梨県は、 日本一日照り時間が長くて雨が 少ないから桃を育てるのにぴった し。	まとめでやった。頑張った。桃の情 報が少なく大変だった。山梨県は、 日本一日照り時間が長くて雨が 少ないから桃を育てるのにぴった し。	まとめで修正をして発表をし あいたい。	まとめで修正と発表をした。育てる ものによって地形や気候、収穫・育 てる季節などが違うこともわかっ た。山梨県は、桃とさくらんぼとど うの3つを育てる条件が揃って るすばらしいのがわかった。でもみか んとか気温とかが違うのは育てられ ないのもわかった。
72	140	11	64	18	120
今日は、さくらんぼに付いて 調べる。位置と時間も調べな がらやる。地図帳、 NHKforSchoolなどを使っ てやる。	さくらんぼの栽培量1位がわかっ た。山形が1番収穫できること知れ た。さくらんぼが次山育つ条件も知 れた。次は、さくらんぼの育て方 の工夫を調べたい。そして、調べた ことをまとめた。	さくらんぼのまとめで完成さ せる。どこで作られているかの 特徴とかもじっくりいれる。	さくらんぼのまとめで完成させるこ とができた。山形の特徴の気候など をいれることができた。	自分が作った原稿を修正し て、発表する。	修正して発表できた。友達のもの聞い て、新しく知れたことがたくさん あった。それぞれ野菜果物は地 形、気候が大事と知れた。
57	86	39	43	19	58
今日は、NHK for Schoolや、 教科書を使って、いちごの季 節やどこで時間などを調べたい です。	インターネットを使って、季節や気 候、温度などを調べることができ ました。NHK for Schoolを使って、宮 城県では、ITを使ってイチゴ栽培を している人を見つけることなどもで きました。	まとめで文章を途中まで作 る。いちごのことをまとめ る。	今日は、まとめで文章をコピーペ ーストで完成くらいまで作ることが できました。気候などをまとめるこ とができました。	資料集を見て、まとめでな を仕上げに入りたいです。	発表をしていて緊張していたけど、 頑張って発表することができた。イ チゴ以外にも、色々なことを知るこ とができた。

めあての欄には、「位置の広がり」、「時期」、「気候」など、社会的な見方で学
習を進めようとしている様子が見られる。また、教科書、NHKforSchool、地図帳など、
選択した資料の記入もある。追究場面では、自分が調べたいと思ったことを進んで検
索したり、見付けたことを共有したりするなど主体的な姿が見られ、協働から疑問が
生まれ、次の学びに向かう姿も見られた。

【資料7】個に注目した授業改善

きせつとながよし あき		なまえ(ひきだ りの)	
みつめた あきを へんしんさせて たのしもう。			
・このしからで できるようになりたいこと ・へんきょうしたいこと		・わかったこと ・できるよになったこと ・もっとしたいこと・つぎはこうしたい	
ひにち	めあて	ありかた	
① 10/13	つくりかたをしらべる。	まだでカッパにきいずいできたおもしろい。	
② 10/25	ねっくれすをつくる。	どんぐりのくるまがでまてうれしかったです。	
③ 10/27	つくる すべりだい。	どんぐりのくるまがでまてうれしかったです。	
④ 10/30	つくるくるま。	どんぐりのくるまがでまてうれしかったです。	
⑤	あそぶ。	どんぐりのくるまがでまてうれしかったです。	
メモ			



その子が使いたいと考えるだろうと予想した道具を配置した。このような環境設定により、授業開始前から子供の思いが膨らんでいる様子が見られた。授業開始後は、自分の思いを表現するために、試行錯誤する姿が見られ、振り返りの時間にはワークシートに、感想や気づきを書くだけでなく、矢印で学びの順番を入れ替えるなど、学びを調整する姿も見られた。

【資料8】「心の健康観察」結果一覧

6月3日(月)	6月10日(月)	6月17日(月)	6月24日(月)	7月1日(月)
ふつう	とてもよい	とてもよい	ふつう	よい
いつもと同じだから	周りがきれいだから	良く眠れた。	あまり眠れていない	少し眠い
とてもよい	ふつう	よい		わるい
お弁当のときに置いては行けないドキドキゲームをして、養さんをダウンさせささと、先生が自選したことが面白かったです。	いつもと何も変わらないから	足が治ってきていて、歩けるくらいまで骨が元通りになってきたから。		今日、友達が休んでいるし、家で、お父さんとお母さんの喧嘩の頻度が増えているから。
ふつう	わるい	わるい	ふつう	わるい
体ががつかれている。	体が疲れている。	体がだるい	少し眠い	眠い

10月21日(月)	10月29日(火)	11月5日(火)	11月11日(月)	11月18日(月)
よい	よい			よい
特別日課だから。	がっこうのこと	欠席	欠席	いえでのこと
とてもよい	とてもよい	とてもよい	よい	よい
19日がおたんじょうび会だったから。	きのう、たんじょうびプレゼントのストラップのヘッドホンを買ってもらったから。	おととい、おまつりに行ったから	土曜日はじゅんくんのサッカーの試合でたべたかったサンドイッチを買ってもらったから。	きのうの曜日はのたべたかったサンドイッチを買ってもらったから。
とてもよい	欠席	欠席	とてもよい	とてもよい
がっこうのこと、ともだちのこと、いえでのこと、からだのこと			がっこうのこと、ともだちのこと、いえでのこと、からだのこと	がっこうのこと、ともだちのこと、いえでのこと、からだのこと
とてもよい	とてもよい	とてもよい	とてもよい	ふつう

「心の健康観察」は毎週月曜日に実施する。長期休業後の授業再開日には、久しぶりに友達にあえて嬉しいという回答もあった。回答を全教職員で共有し、子供理解の一助にしている。「心のアンケート」は随時入力可能で、困っていても伝えることが苦手な子にとっても、アンケートで発信することが、安心感につながっている。

(4) 函南町教育委員会

1 指定校への支援内容

令和5年度、令和6年度の2年間を通して函南町教育委員会としては以下の5点を中心に支援を行った。

- (1) 指定校で行われる授業研修を参観して共に研究し、必要な指導・助言を行う。
- (2) 指定校で行われる講演に参加し、研究の視点について共有する。
- (3) 指定校とともに調査の分析や考察を行う。
- (4) 町教育委員会が主催する研修主任研修にて協議、情報交換する場を設定する。
- (5) 研究発表会を開催する上で必要な支援を講じる。

以下に年間の計画を踏まえた支援内容を記載する。

【令和5年度】

月	内容
4月	21日 県指導主事との打ち合わせ会同行<町参事参加> 今後の研究の進め方について確認した。
5月	22日 研究の方向性・視点の確認<町指導主事参加> 研修主任より、研究仮説、目指す子供の姿等について提案があった。特に、目指す子供の姿については、低学年、中学年、高学年それぞれの具体的な姿について職員間で共有するための議論がなされた。さらに、どのような授業改善ができればか学年団ごとに検討し、共有した。 町指導主事からは「方向性を決めて取り組み、成果や課題を整理していくこと」、「学校として『学び方』について検討していくこと」、「子供たちが目的意識や他者意識をもてるようにすること」について助言を行った。
6月	7日 イエナプラン実践校（大日向小学校 校長）講演<町指導主事参加> イエナプラン実践校である大日向小学校校長久保礼子氏の講演を伺った。異年齢学級や、リビングルームとしての教室、4つの活動からなる時間割など先進的な取組で、システムをすぐに取り入れることは難しいものの、「子供を中心に考える」という基本理念についての学びが多くあった。講演後には、丹那小学校職員より、評価や指導体制、理念の共有などについて積極的な質問があり、丹那小学校の子供の実態を踏まえて取り組んでいこうとする意欲的な姿勢が見られた。 町指導主事からは、評価と評定について追加で質問をし、自己評価の大切さ、ポートフォリオの活用などについての回答を得た。 23日 授業研①<静東教育事務所参事・県義務教育課教育主査・町指導主事参観> 丹那小学校の授業改善に向けた5つのポイントを意識した1年生国語「みんなが楽しめるかるたをつくろう」の授業を参観した。本年度最初の研究授業であり、研修主任が授業を行った。1時間の中で5つのポイントを盛り込むことで難しい面もあったが、目指す授業イメージを職員が共有することができた。

	本授業での事後研、及び研修後の推進委員会では、静東教育事務所参事、県義務教育課教育主査から指導・助言をいただいた。町指導主事は授業および研修について気付いたことを文書でまとめ後日送付した。特に「ループリックの妥当性」、「個別活動やグループ活動での子供の見取りと声かけ」について助言を行った。
7 月	5 日 授業研② <静東教育事務所教育主査・町指導主事参観> 3 年生理科「ゴムパワーを調べよう」の授業を参観した。経験豊かな授業者による子供へのやさしい声かけ、子供たちの活動を保証する学習の場づくりが見られた。 町指導主事は事後研に参加できなかったため、授業について文書でまとめて後日送付した。特に「子供が主体的に活動するために自由度を高めた選択の場を設定すること」「子供の表れを教師が肯定的に見取って他の子供とつなげること」について助言を行った。 24 日 個別最適・協働的学びに向けた ICT の活用について講演<町指導主事参加> ICT の活用について京都教育大学教職キャリア高度化センター講師の大久保紀一朗氏の講演を伺った。ここまで、「主体的に学ぶ姿」と「ともに学ぶ姿」を大切にした授業づくりをしてきたが、ICT を十分に活用しているとは言えない状況であった。この講話を経て、具体的なツールとそれを活用していくイメージがもてたことで、この後の ICT を使った振り返りや ICT を用いた OPP シートの活用につながった。 講演後の研修推進委員会では、これまでの授業研を経て、授業改善に向けたポイントや事後研修のもち方、日々の授業に生かすための手立てについて検討した。
10 月	20 日 授業研④<静東教育事務所教育主査・町指導主事参観> 4 年生社会「わたしたちのまちの残したいもの伝えたいもの」の授業を参観した。研修テーマにある「主体的」「学び合う」を意識し、ICT の活用も考慮した上で地域教材について詳細な教材研究を重ねた様子が見えた。 町指導主事からは、特に「OPP シートの有効性とめあて設定の重要性」「子供にとって課題が自分事となるためにどのような手立てを行い、任せていくか」という点について助言を行った。
12 月	4 日 「学び方のレベルアップと自己選択による学びの保証」講話<県義務教育課教育主査・静東教育事務所教育主査・町指導主事参加> 静岡大学大学院教育研究科教授村山功氏を招き講演を伺った。講演の前には全学級の授業参観及び研修主任による校内研修の報告を行った。村山教授からは子供の様子からよい点として「ICT の活用が進んでいる」、「子供がよく話をしている」等、改善点として「少人数の話合いとクラス全体の話合いの区別が曖昧であること」、「指示待ちにならざるを得ない状況になっていること」、「ICT を

	使用しても黒板を活用していくこと」などを指摘いただいた。講演では、仮説検証の形で研究を進めていくことへの課題を指摘いただいた上で「学び方を学ぶこと」について事例を踏まえてご指導いただいた。 11日 授業研⑥<町指導主事参観> 2年生国語「本の『おび』を作ろう!」の授業を参観した。「子供が作る単元計画」、「子供たちと相談しながら決定、共有していく学習目標」について意図された授業であった。 町指導主事からは、どのような単元、授業で子供に委ねるべきか、教師はどのように関わるかなどを整理することで、これまでの研修の成果が活用できることについて助言を行った。
--	--

【令和6年度】

月	内 容
4月	25日 町研修主任研修会（企画・運営）
5月	20日 授業研①（参観）<静東教育事務所教育主査・町指導主事参観> 4年生国語「不思議な出来事をとらえて読み、考えたことを話そう」の授業を参観した。「子供と単元のゴールを共有する」、「子供と単元計画を作成する」について重点を当てた授業であった。 町指導主事からは、「学習計画を立てる」ことの必要感や目的を子供が意識できるようにする手立ての必要性、学び方を学ぶ指導の大切さについて助言を行った。
6月	13日 研修推進に向けた打ち合わせ <町指導主事参加> 校長、教頭、研修主任と共に研修推進に向けた打ち合わせを行った。研修主任から現在の研修の進捗と課題についての報告を受け、丹那小としての「誰一人取り残さない教育」のイメージの共有、子供が主体となるための授業の在り方についての協議を行った。 26日 授業研②（参観）<静東教育事務所指導監・教育主査・町指導主事参観> 5年生社会「くらしを支える食料生産」の授業を参観した。「子供が教科の見方・考え方を働かせた本時のめあてをたてる」、「子供が学び方を選択・決定する」に重点を当てた授業であった。 町指導主事からは、見方・考え方については、教師が示すのではなく、子供から引き出す工夫が必要であること、主体的に活動するための学習課題の工夫や、活動の目的の確認が大切であることについて助言を行った。 また、12月の研究発表会の運営について相談をした。
10月	1日 町主幹教諭・教務主任・研修主任合同研修会（企画・運営）

	23 日 授業研③（参観）＜静東教育事務所教育主査・町指導主事参観＞ 1 年生活科「きせつとなかよし あき」の授業を参観した。「子供が学び方を選択・決定する」、「子供が自分の学びを調整する」に重点を当てた授業であった。生活科という教科の特性もあり、子供が中心となり、主体的な活動が見られた。 町指導主事からは夏休み中の校内研修で「子供の姿から」「子供の力を引き出す」ことを確認して取り組んだことが授業および事後研に生かされていることを伝えた。
12 月	6 日 研究発表会＜義務教育課指導監・班長・教育主査、静東教育事務所長・指導監・教育主査、県総合教育センター教育主幹、函南町教育委員会教育長・参事・指導主事参観＞ 研修概要の説明、5 学級の授業公開と共に静岡大学准教授塩田慎吾氏のご講演を伺った。これまでの研究を踏まえ、単元構想を核とした指導案を作成し、学習計画の場面や選択と決定の場面を中心に授業公開を行った。塩田准教授のご講演では、「子供を主語にした授業づくり」、「「学び方を学ぶ」ことの重要性」「授業だけでなく「その子」の実態をとらえる」など丹那小学校の研究について価値付けいただいた上で ICT の活用や「誰一人取り残さない」という視点で多くの示唆をいただいた。

2 研究成果等の周知について

(1) 4 月 25 日 函南町研修主任研修会

各校の研修計画、取組等について情報交換を行った。この中で、丹那小の研究について中間報告書を用いて取組の状況や今後の計画について周知を行った。

(2) 10 月 1 日 主幹教諭・教務主任・研修主任合同研修会

町内の主幹教諭・教務主任・研修主任が一堂に会す研修会において、ここまでの研究の進捗を丹那小研修主任より発表した。後半の分科会では単元構想を核とした新しい指導案形式について検討した。

(3) 12 月 6 日 研究発表会

町内小中学校からは管理職、研修主任を含む 3 名の参加を依頼した。

3 その他

- ・研修主任研修会において、新たに授業参観を設定し、各校の研修テーマを参観の視点として協議、情報交換を行った。
- ・家庭学習においても ICT 機器の活用を推進し、必要な時に端末を持ち帰り、児童生徒が自分なりに工夫した家庭学習に取り組むことのできる環境を整備した。
- ・『誰一人取り残さない教育』をキーワードに研修主任研修会、主幹教諭・教務主任・研修主任合同研修会等で授業や家庭学習の在り方について協議した。